

1. 申請者情報

Table with applicant information including prefecture (熊本県), municipality (芦北町), applicant name (曾我部亮輔), and contact details.

2. 交付対象事業の名称等

Table detailing the project name (地域材循環×木育×多世代交流による林業・木材産業振興拠点整備事業), categories, and implementation periods.

Summary table of project costs and funding, showing a total of 23,670,000 yen for soft projects and 11,835,000 yen for infrastructure projects.

3. 交付対象事業の背景・概要

Background and overview section containing detailed text under sub-headings A (Local Creation) and B (Structural Issues), discussing population trends, local resources, and challenges in the forestry sector.

C. 交付対象事業の概要
(交付対象事業がどのように構造的な課題の解決に寄与するのが分かるように記載すること。)

■拠点整備事業の概要

本事業は、町内の公共施設(総合コミュニティセンター子どもの広場及び町立中学校の多目的教室)において、町産材を用いた内装木質化(WoodInfill)と木製品整備を行い、日常利用の中で地域材に触れる機会を常設化するものです(※新築は行わず既存施設の一部改修)。あわせて、公共調達により地域材利用の仕様・数量・発注時期を“見える化”し、域内の加工・施工の受注機会を継続的に生み出します。これにより、事業者が雇用・育成計画を立てやすい環境を整え、担い手確保(最重要KPI①:林業就業者数の増加)につながる受け皿を形成します。整備した木質空間・木製品は、効果促進事業(ソフト)の教材／実証物として活用し、学び・体験・就業導線の実装を後押しします。

- (1)設置場所(施設名)
芦北町総合コミュニティセンター子どもの広場、芦北町立佐敷中学校多目的教室、芦北町立田浦中学校多目的教室、芦北町立湯浦中学校多目的教室
- (2)施設所在地
熊本県葦北郡芦北町内(各施設敷地内)
- (3)施設面積・構造・階数
既存公共施設の一部改修(内装木質化、木製品整備等)※建築物の新築は行わない
- (4)運営予定者
芦北町(教育委員会)
- (5)施設の機能
 - ①木質空間(WoodInfill)整備(需要創出・実証拠点)
 - ・総合コミュニティセンター及び町立中学校の多目的教室に、町産材による内装木質化(WoodInfill)と木製品を整備し、日常利用(放課後活動・子育て支援・地域活動)の中で地域材に触れる機会を常設化します。
 - ・整備箇所・使用部材は、樹種・産地・使用目的等が分かる表示(掲示・サイン等)を行い、「どこに、どれだけ、どのように町産材を使っているか」を利用者が理解できる状態をつくります(学習・展示の“実物教材”化)。
 - ・公共調達により、部材仕様(寸法・樹種・仕上げ等)、数量、施工内容、発注時期(工期)を明確化し、域内の製材・加工・施工等の受注機会を継続的に発生させることで、事業者が人員配置・技能育成・設備投資を検討しやすい環境を形成します。
 - ②木育・木造建築／伝統技術の学び(人材育成・技能継承)
 - ・木質化した教室を活用し、探究学習・出前講座で「森林の循環」「木材利用の意義」「木造・木工の基礎」を扱い、整備した内装・備品を“実物教材”として学びを具体化します。
 - ・出前講座・ワークショップでは、製材・大工・木工等の関係事業者による実演や、木材の性質(強度・乾燥・含水率等)に触れる体験、簡易な木工制作(例:小物・部材組立)を行い、技能職・現場産業の仕事理解につなげます。
 - ・県立芦北高校(林業を学べる学科)等とも連携し、学習成果の展示・発表や、授業と地域事業者の接点づくりを拠点で行い、学びの継続性と地域内での見える化を図ります。
 - ③担い手育成・就業マッチング(KPI①に直結)
 - ・拠点で、仕事理解講座、研修・補助制度の説明などを定期実施し、就業・副業としての参入に必要な情報を一箇所ですぐ得られる状態を整えます。
 - ・事業者面談(マッチング)と短期体験の案内を組み合わせ、「相談→体験→参入」の導線を具体化し、最重要KPI①(林業就業者数)の増加につなげます。
 - ・木質空間・木製品を活用した体験(木工、簡易作業体験、成果展示等)を入口に、参加者の関心を就業選択につなげ、最重要KPI①(林業就業者数)の増加に結び付く行動変容を促します。
 - ④多世代交流・関係人口の創出(KPI②)
 - ・コミセンの木質空間を核に、木育フェス、親子向け体験会、展示・交流イベント等を実施し、町内外の参加者が繰り返し来訪できる機会を設け、継続的な参加者(関係人口)の獲得につなげます。
 - ・イベントや日常利用を通じて、地域材の価値(暮らしの快適性、地域資源への誇り・愛着)を体感する機会を増やし、公共需要に加えて住宅・内装等の民間需要の喚起にも波及させます。
 - ・学校・地域・事業者が同じ拠点で接点を持つことで、学び・体験・交流が断続的に積み重なる状態をつくり、地域活動の活性化と移住定住の下支えにつなげます。

■効果促進事業(ソフト事業)の概要(拠点活用)

木質空間整備(ハード)だけでは、地域材に触れる機会は増えても、利用の継続、担い手確保、需要拡大までの因果が自動的に生まれにくいという課題があります。そこで、整備した木質空間・木製品を「教材／実証物」として活用し、学び・体験・相談・マッチングを拠点で継続的に回す効果促進事業を一体で実施します。具体的には、中学校の木質化した多目的教室を探究学習・職業理解講座(林業・製材・建築・木工の仕事理解)の場とし、将来の就業候補者の母集団形成につなげます。総合コミュニティセンター子どもの広場では、木育フェスや木工体験、展示などを通じて、子育て世代・住民が地域材の価値を体感し、住宅・内装等の民間需要を喚起します。あわせて、町単独で実施する林業研修や自伐型林業の補助制度等と連携し、制度説明、事業者との面談(マッチング)を拠点で定期開催して、就業・副業として参入する導線を具体化します。また、県立芦北高校(林業を学べる学科)等とも連携し、整備した木質空間・木製品を活用した職業理解、成果発表・展示、事業者交流等の機会を組み込み、若年層が林業・木材産業と接点を持つ機会を増やします。これにより、拠点整備で生まれた「見える需要」を、継続プログラムと就業導線で拡張し、最重要KPI①(林業就業者数)の増加につながる行動変容(学ぶ→体験する→相談する→参入する)を促します。

■事業が構造的な課題の解決に寄与する理由

本事業は、最重要KPI①(林業就業者数)の増加に向けて、公共施設に整備する木質空間・木製品を「需要の実証物」かつ「人材導線の場」として常設化し、需要創出と参入促進を同時に回す点に強みがあります。公共調達により地域材利用の仕様・数量・発注時期が可視化・平準化されることで、域内事業者は加工・施工の受注見通しを持ちやすくなり、雇用・育成計画(人員配置、技能習得、機械更新等)に踏み込みやすくなります(=KPI①の受け皿形成)。同時に、拠点(中学校・コミセン)での学び・体験・相談・マッチングを定期化することで、町内若年層、Uターン希望者、兼業・副業希望者が林業・木材産業に触れる機会が増え、参入障壁(情報不足・経験不足)が低下します。加えて、県立芦北高校(林業を学べる学科)等の教育基盤と拠点プログラムを接続することで、学び(授業・探究・成果発表)と地域事業者の接点が継続的に生まれ、学びから就業・参入へ至る導線が具体化されることで、将来の就業候補者の母集団が厚くなります。住民が木質空間を日常利用し地域材の価値を体感することで、公共需要に加えて住宅・内装等の民間需要が喚起され、単発受注に偏りがちな域内取引を継続的な需要へと転換しやすくなります。以上の一連の因果により、「見える需要」と「就業の入口」を同時に増やし、森林資源の循環利用を支える担い手(最重要KPI①)を増加させる計画です。

D. 事業分野(大項目)のいずれかを選択した理由 (地域未来戦略における3分類(戦略産業クラスター関連事業／地域産業クラスター関連事業／地場産業支援関連事業)との関連性)

・本事業は、地域資源(森林・町産材)を核に、公共調達を起点とした需要創出と域内付加価値化を図る「地場産業支援関連事業(林業・木材産業)」として位置付けます。総合コミュニティセンター・学校・は、需要創出と木育実装のための公共拠点(実証フィールド)であり、教育分野単独の施設改修ではありません。
・町産材の利用拡大は、林業・製材・建築・木工などの域内事業者の受注機会を確保し、森林整備・再造林の原資形成にも波及します。併せて、木育・伝統木造技術の学びを継続的に提供することで、人材育成・技能継承を図り、産業の持続性を高めます。
・木質空間を介した多世代交流は、子育て世代を含む暮らしの質向上、地域への誇り・愛着形成に資するため、人口減少局面における定住・関係人口の観点からも、産業振興と一体で実装する意義があります。

4. 優先採択テーマへの該当

優先採択テーマ	申請なし
---------	------

5. 他政策・施策等との連携状況

<中心市街地活性化に係る事業>

概要	
----	--

<特区制度を活用した、又は活用しようとする事業>

特例措置活用		提案		事前相談			
特例措置・提案・事前相談名							
特区指定・認定		特区種別①		特区種別②		特区種別③	
概要							

<対日直接投資の誘致を支援する取組につながる事業>

概要	
----	--

<地域のデジタル人材への教育のための事業>

概要	
----	--

<スタートアップ支援に係る取組>

概要	
----	--

6. 他の政策・施策に基づく取組と連携する事業における弾力措置の対象となる事業

連携する取組		所管省庁への 事前相談
主務大臣による認定を受けた政策・施策間連携に関する事業 計画の名称		
地域未来投資促進 法の「基本計画」に 明記される事業のうち、 個別事業者への 支援が含まれる場合 のみ記載	基本計画に適合するとして承認された 地域経済牽引事業計画の名称	
	主務大臣の承認を得られた 連携支援計画の名称	
地域未来投資促進法の「基本計画」に明記される事業のうち、 設備投資等の支援を行う場合のみ経済波及効果を記載		

7. 対象外事業の除外

(1)	ソフト事業及び拠点整備事業において、他の国庫補助金等の対象となる部分や特別交付税等の他の財政上の支援を受けている経費を除外しているか。	○
(2)	ソフト事業及び拠点整備事業において、従前から一般財源により実施されている事業経費や経常的な経費等の財源振替、地方公共団体が実施する福祉事業等、本来一般財源で措置すべき経費を除外しているか。	○
(3)	ソフト事業及び拠点整備事業において、提案、企画・立案に関するコンサルティング経費を除外しているか。	○

8. 交付対象事業の重要業績評価指標(KPI)

KPI① (事業・施策の全体効果 を示す必須KPIを設定す ること)	林業就業者数	単位	人									
KPI②	関係人口(木育・町産材利用に関わる町外参加者数)	単位	人									
KPI③	町産材を活用した新築住宅建築件数	単位	件									
KPI④	森林環境譲与税を活用した森林整備面積	単位	ha									
KPI⑤		単位										
KPI⑥		単位										
設定したKPIが複数年に わたって費用対効果を 計測するのに適してい る理由・計測手法・目標 値の根拠	<p>KPI① 林業就業者数／単位：人 ・基準値：59人(令和2年国勢調査) ・設定理由：森林資源の循環利用を担う労働力の確保が本事業の主課題であり、地域全体の成果を最も端的に示す総合アウトカム指標として設定する。 ・計測手法：国勢調査(産業別就業者数)を基本とし、町内事業者・森林組合等への聞き取りにより補完し、年度末に把握する。</p> <p>KPI② 関係人口(木育・町産材利用に関わる町外参加者数)／単位：人 ・基準値：0人(令和7年度末：本事業としての把握開始前) ・設定理由：拠点整備を活用した学び・交流機会を通じ、町外からの継続的な関わりを創出する成果を把握するため設定する。 ・計測手法：木育フェス、講座・ワークショップ等の参加者受付(住所地等)により年度集計する。</p> <p>KPI③ 町産材を活用した新築住宅建築件数／単位：件 ・基準値：3件(令和7年度実績値) ・設定理由：公共設備への木材利用だけでなく、民間投資により地域産業の売り上げをとらえる指標として設定する。 ・計測手法：町産材を活用した木造住宅支援事業の実施件数により把握する。</p> <p>KPI④ 森林環境譲与税を活用した森林整備面積／単位：ha ・基準値：8ha(令和7年度整備面積) ・設定理由：地域の木材需要拡大の結果として森林整備(間伐)がどの程度進んだかを把握する指標として設定する。 ・計測手法：町が発注する森林整備面積により把握。</p>											
	事業開始前 (現時点)	2026年度 増加分	2027年度 増加分	2028年度 増加分	2029年度 増加分	2030年度 増加分	2031年度 増加分	2032年度 増加分	2033年度 増加分	2034年度 増加分	2035年度 増加分	KPI増加分の累計
KPI①	59	2	2	1								5.00
KPI②	0.00	100.00	50.00	50.00								200.00
KPI③	3.00	1.00	1.00	1.00								3.00
KPI④	8.00	7.00	3.00	2.00								12.00
KPI⑤												0.00
KPI⑥												0.00

9. 自立性

取組内容 (事業を進めていく中で、事業推進主体が自立していくことにより、将来的に本交付金に頼らずに、事業として継続していくことが可能となる事業であること。)							
木質空間(拠点整備)は既存施設の改修であり、整備後の維持管理は通常の施設管理費の範囲で継続可能です。 効果促進事業(ソフト事業)は、学校の探究学習・地域連携活動、コミュニティセンターの講座事業として常設化し、交付金期間後は通常事業化(一般財源)へ段階移行します。 ふるさと納税(町産材製品等の返礼品)や企業版ふるさと納税・寄附を組み合わせ、財源を多様化して継続運営します。 拠点を活用した研修・マッチングの仕組みを定着させることで、町産材の受注増・人材定着(KPI①)を通じた地域経済の循環を生み、結果として町の財源確保にもつなげます。 このため、本交付金は「初期整備を集中的に支援し、その後は通常財源+自主財源で回す」移行設計となっており、自立的な事業継続が可能です。							
自主財源の種類		自主財源の内容					
[A]	一般財源	優先的な一般財源の充当					
[B]	ふるさと寄附	ふるさと応援寄附による財源確保					
[C]							
[D]							
[E]							
各年度における自主財源見込額	事業開始前(現時点)	2026年度(1年目)	2027年度(2年目)	2028年度(3年目)	2029年度(4年目)	2030年度(5年目)	2031年度(6年目)
[A]	0千円	11,835千円	5,293千円	5,293千円			
[B]	0千円		1,000千円	1,000千円			
[C]							
[D]							
[E]							
合計	0千円	11,835千円	6,293千円	6,293千円	0千円	0千円	0千円
交付対象事業経費		23,670千円	12,585千円	12,585千円	0千円	0千円	
うちソフト事業費							
うち拠点整備事業費		23,670千円	12,585千円	12,585千円	0千円	0千円	
総事業費	0千円	23,670千円	12,585千円	12,585千円	0千円	0千円	0千円

10. 地域の多様な主体の参画

地方公共団体名	分類	産	学	学	住民全体			
熊本県芦北町	主体名	林業・木材関連事業者	芦北高校(林業科)	外部有識者	住民			
	主な役割、意見及び改善方策への反映	【役割】 ・町産材の供給・加工・品質管理、施工体制の確保を担い、木質空間整備における仕様・納材計画・施工性(安全性、耐久性、維持管理性)等の提案を行う。 ・見学受入れ、仕事理解講座、体験プログラムの講師協力等を通じ、就業導線づくりに参画する。 【意見・改善方策】 ・利用者動線や安全面、部材仕様(強度・耐久・メンテ)に関する意見を設計・発注仕様へ反映する。 ・受注の平準化や人材育成の観点から、発注時期・ロット・標準仕様の見直し等を提案し、KPI①(就業者数)につながる体制強化を図る。	【役割】 ・木育・職業理解等の学びを拠点(木質化した教室・コミセン)で実施する際の参画主体として、授業・探究活動、成果発表・展示、現場見学等の学習機会を地域事業者との接点につなげ、将来の担い手形成(最重要KPI①)に資する入口の拡大に協力する。 【意見・改善方策】 ・プログラム内容(講座テーマ、実施頻度、発表・展示方法)が教育的に継続可能となるよう改善提案を行うとともに、参加導線(対象学年、参加募集、事業者交流の設計)を毎年度検証し、拠点の活用方法を見直す。	【役割】 ・木材利用/木育/地域産業振興の専門的見地から、計画の妥当性・実効性の助言、KPI設計・評価(効果検証)を行う。 ・先事例やネットワークを活用し、プログラム内容(就業導線、教育連携、発信手法)の高度化を支援する。 【意見・改善方策】 ・KPI①(林業就業者数)の増加につながる因果が弱い部分について、改善案(プログラム設計、参加対象、頻度、マッチング手法)を提示し、運用に反映する。 ・評価結果を踏まえ、拠点の使い方(展示・講座・相談機能)や広報導線を見直し、効果が最大化するよう改善する。	【役割】 ・木質空間の主要利用者として、日常利用・イベント参加を通じて町産材の価値を体感し、地域への理解・支持を広げる。 ・利用者目線の改善提案(使い勝手・安全・魅力)を継続的に提供し、拠点の定着化に参画する。 【意見・改善方策】 ・アンケートやワークショップでの意見を運営ルール(利用時間、備品配置、衛生・安全、イベント内容)に反映する。 ・家庭・地域での木育の実践や口コミ発信により参加者を広げ、民間需要の喚起と担い手確保(KPI①)を間接的に後押しする。			

11. 交付対象事業の効果検証及び事業内容の見直しの方法、時期及び体制

地方公共団体名	外部組織による検証			
	検証時期	検証方法	外部組織の参画者	検証結果の公表方法
熊本県芦北町	毎年度 9 月	内部評価の上、外部検証組織により実施する。	芦北町総合戦略推進委員会を構成する有識者	検証後、芦北町のホームページ等にて検証結果を公表

12. 地方版総合戦略の策定状況

地方公共団体名	地方版総合戦略の計画期間・基本目標	
	現行の地方版総合戦略	次期地方版総合戦略
熊本県芦北町	2025 年 4 月 1 日 から 2029 年 3 月 31 日 まで	年 月 日 から 年 月 日 まで
	①活力と雇用をつくる ②地域の魅力をつくる ③結婚・出産・子育ての希望がかなう環境をつくる ④暮らしを支える基盤をつくる	

13. 地域再生計画の名称等

地方公共団体名	地域再生計画の名称
熊本県芦北町	芦北町まち・ひと・しごと創生推進交付金計画
	地域再生計画の区域 熊本県芦北町の全域
	計画期間 地域再生計画の認定の日 から 2029 年 3 月 31 日 まで

地域未来推進型の財源に関する意向調査

都道府県名	熊本県	市区町村等名	芦北町	地方公共団体コード	43482
単独／広域／広域リージョン	単独	交付対象事業の名称	地域材循環×木育×多世代交流による林業・木材産業振興拠点整備事業		

※広域連携事業、広域リージョンとして実施する事業の場合は、代表となる地方公共団体が入力すること。

(1) ①国の補正予算の充当を希望する、②国の当初予算の充当を希望する、③希望なしを選択してください。【全事業】

国の財源 ※以下①～③より選択	①
備考	

(2) 令和7年度中の交付決定を希望する場合は○を入力してください。【新規事業のみ】

令和7年度中の 交付決定を希望する	○
----------------------	---

(3) 令和7年度中の交付決定を希望する場合は○、しない場合は×を入力してください。なお、×を選択した場合はその理由を記載してください。【継続事業のみ】

令和7年度中の 交付決定を希望する、 又は希望しない	新規事業のため選択不要
上記×の場合は、 理由を記載	-

(別紙1-2) 拠点整備事業経費内訳

1. 交付対象施設の概要

(1) 施設の名称及び場所

施設の名称	芦北町総合コミュニティセンター、芦北町立佐敷中学校、田浦中学校、湯浦中学校
施設の場所	熊本県葦北郡芦北町大字花岡1647(コミュニティセンター)、花岡496-2(佐敷中学校)、大字田浦760(田浦中学校)、大字湯浦369(湯浦中学校)

(2-1) 施設の所有者

種類	地方公共団体	名称	芦北町
出資比率	100.0%		

(2-2) 施設の整備主体

整備主体	芦北町
------	-----

(2-3) 民間事業者等(公共的団体等を除く)が所有主体の場合 ※該当がある場合

該当	①	民間事業者等(公共的団体等を除く)が所有する施設等を地方公共団体や公共的団体等が整備する場合	
	②	民間事業者等(公共的団体等を除く)が所有し、かつ整備する施設等について、地方公共団体が整備費を補助する場合	
要件	地方自治法に基づく「公の施設」として位置付けられるか		「公の施設」としての位置付け及び協定等の締結の時期 (例)●年●月頃
	「公の施設」として位置付けられない場合) 協定等の締結により中長期的・安定的な施設運営を担保されるか		
	「公の施設」として位置付けられない理由		
	協定等の内容		

2. 事業計画期間及び施設の供用開始年度

施設整備等の事業計画期間及び施設の供用開始年度	①事業計画期間(全体) ※その他の補助金等を用いて整備する部分も含めた全体期間								②事業計画期間(交付対象) ※拠点整備タイプの対象事業の実施期間								施設の供用開始年度	
	2026	年	4	月	~	2029	年	3	月	2026	年	4	月	~	2029	年	3	月
「①全体」と「②交付対象」の期間が異なる理由 ※①と②の終了時期が異なる場合のみ記載	計画1年目(2026年度) 芦北町総合コミュニティセンター、芦北町立佐敷中学校 整備・供用開始 計画2年目(2027年度) 芦北町立田浦中学校 整備・供用開始 計画3年目(2028年度) 芦北町立湯浦中学校 整備・供用開始																	

3. 経費内訳

	2026年度 (1年目)	2027年度 (2年目)	2028年度 (3年目)	2029年度 (4年目)	2030年度 (5年目)	合計
交付対象事業経費【①】	23,670千円	12,585千円	12,585千円	0千円	0千円	48,840千円
交付対象事業における建築物整備経費【②】	17,600千円	8,800千円	8,800千円	0千円	0千円	35,200千円
交付対象事業における設備整備・用地造成等経費【③】	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
交付対象事業における備品整備経費【④】	4,570千円	2,285千円	2,285千円	0千円	0千円	9,140千円
交付対象事業における効果促進事業(ソフト事業)経費【⑤】	1,500千円	1,500千円	1,500千円	0千円	0千円	4,500千円
交付対象事業における備品整備経費比率【④/①】	19.4%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%	18.8%
全体事業費	23,670千円	12,585千円	12,585千円	0千円	0千円	48,840千円
(2-3)②に該当する場合の全体事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円
(2-3)②に該当する場合の交付対象事業費	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円

全事業期間における本年の位置付け		町産材木質空間の整備(需要創出・実証拠点)町内拠点施設として1年目は、2か所を整備します。													
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①		予算種別①	予算計上時期②		予算種別②	予算計上時期③		予算種別③			
2026年 4月		2027年 3月		2026年 9月		補正	年 月			年 月					
交付対象事業経費		23,670千円													
建築物整備経費		17,600千円		設備整備・用地造成等経費		0千円		備品経費		4,570千円		効果促進事業(ソフト事業)経費		1,500千円	
建築物整備の内容										要素事業数		1			
区分	整備内容の説明	金額(千円)		経費内訳											
		全体	対象												
模様替	<p>【整備場所の名称】 芦北町総合コミュニティセンター子どもの広場 芦北町立佐敷中学校多目的教室</p> <p>【整備内容】 ・総合コミュニティセンター:遊び・交流の空間として町産材仕様の木質空間(WoodInfill)及び木製備品を整備し、木のおもちゃ等を配置して、子育て世代を含む多世代が日常的に木に触れる機会を創出する。 ・学校:これまで木質化が遅れている学校施設へ同様の木質空間などを整備し、木材産業振興と木育の実証拠点として活用する。(探究学習、地域人材による出前授業、地域材のストーリー発信等)。 ・木質空間設置 2拠点</p>	17,600	17,600	<p>・木質空間設置工事費 17,600千円(うち、交付対象事業経費 17,600千円)</p> <p>【合計】 17,600千円 (うち、交付対象事業経費 17,600千円/内訳:芦北町 17,600千円)</p>											
				関連するKPI		①②									
				(2-3)⑥に該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額											
				全体事業費											
				交付対象事業費											
小計		17,600	17,600												
設備整備・用地造成等の内容										要素事業数		0			
区分	整備内容の説明	金額(千円)		経費内訳											
		全体	対象												
小計		0	0												
備品整備の内容										要素事業数		0			
備品整備の説明		金額(千円)		経費内訳											
		全体	対象												
<p>【木育備品】 ○芦北町総合コミュニティセンターでの木のおもちゃ整備</p> <p>【木質空間備品】 ・木質テーブル1台×2拠点 ・木質チェア6台×2拠点</p>		4,570	4,570	<p>【木育備品】1,600千円 ・木のおもちゃ 1,600千円</p> <p>【木質空間備品】 2,970千円 (うち、交付対象事業経費 2,970千円/内訳:芦北町 2,970千円)</p> <p>・木質テーブル 385千円×2(うち、交付対象事業経費 770千円) ・木質チェア 1,012千円×2(うち、交付対象事業経費 2,024千円) ・送料 176千円(うち、交付対象事業経費 176千円)</p>											
				(2-3)⑥に該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額											
				全体事業費											
				交付対象事業費											
				小計		4,570	4,570								

効果促進事業(ソフト事業)の内容			要素事業数	1
効果促進事業(ソフト事業)の説明	金額(千円)		経費内訳	
	全体	対象		
【木育・木造建築/伝統技術を学べる場:木育フェスの開催】 ・木造建築の伝統技術等を学ぶ講座・ワークショップ ・木についての講演 ・高性能林業機械の展示 ・丸太切体験、チェンソーアート等	1,500	1,500	【木育・木造建築/伝統技術を学べる場:木育フェスの開催】1,500千円 ・木育フェス実行委員会への補助金1,500千円(うち、交付対象事業経費 1,500千円) 補助対象者 木育フェス実行委員会(仮称) 補助率 10/10 補助上限額 1,500千円 補助対象経費 講座・ワークショップ講師等への謝金、材料費 展示機材の賃借料 消耗品費 ※当該事業のみで使用されることが確認できるもの 委託・外注費 ※補助事業者が直接実施することができないもの又は適当でないものについて、他の事業者へ委託・外注するために必要な経費(ほかの経費項目に含まれるものを除く)	
			関連するKPI	②
			(2-3)⑥に該当する間接補助の場合以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額	
			全体事業費	
			交付対象事業費	
小計	1,500	1,500		

<2027年度(2年目)> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置付け	町産材木質空間の整備(需要創出・実証拠点)町内拠点施設として2年目は、1か所を整備します。						
事業開始時期	事業終了時期	予算計上時期①	予算種別①	予算計上時期②	予算種別②	予算計上時期③	予算種別③
2027年4月	2028年3月	2026年3月	当初	年月		年月	
交付対象事業経費	12,585千円						
建築物整備経費	8,800千円	設備整備・用地造成等経費	0千円	備品経費	2,285千円	効果促進事業(ソフト事業)経費	1,500千円
建築物整備の内容						要素事業数	1
区分	整備内容の説明	金額(千円)		経費内訳			
		全体	対象				
模様替	【整備場所の名称】 芦北町立田浦中学校多目的教室 【整備内容】 ・これまで木質化が遅れている学校施設へ町産材仕様の木質空間(WoodInfill)及び木製備品を整備し、木材産業振興と木育の実証拠点として活用する。(探究学習、地域人材による出前授業、地域材のストーリー発信等)。 ・木質空間設置 1拠点	8,800	8,800	・木質空間設置工事費 8,800千円(うち、交付対象事業経費 8,800千円) 【合計】 8,800千円 (うち、交付対象事業経費 8,800千円/内訳: 芦北町 8,800千円)			
				関連するKPI	①②		
				(2-3)⑥に該当する間接補助の場合以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額			
				全体事業費			
				交付対象事業費			
小計		8,800	8,800				
設備整備・用地造成等の内容						要素事業数	0
区分	整備内容の説明	金額(千円)		経費内訳			
		全体	対象				
小計		0	0				

備品の内容			要素事業数	1
備品整備の説明	金額(千円)		経費内訳	
	全体	対象		
【木育備品】 ○芦北町総合コミュニティセンターでの木のおもちゃ整備 【木質空間備品】 ・木質テーブル1台×1拠点 ・木質チェア6台×1拠点	2,285	2,285	【木育備品】800千円 ・木のおもちゃ 800千円 【木質空間備品】 1,485千円 (うち、交付対象事業経費 1,485千円/内訳:芦北町 1,485千円) ・木質テーブル 385千円(うち、交付対象事業経費 385千円) ・木質チェア 1,012千円(うち、交付対象事業経費 1,012千円) ・送料 88千円(うち、交付対象事業経費 88千円)	
			関連するKPI	①②
			(2-3)⑥に該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額	
			全体事業費	
			交付対象事業費	
小計	2,285	2,285		
効果促進事業(ソフト事業)の内容			要素事業数	1
効果促進事業(ソフト事業)の説明	金額(千円)		経費内訳	
	全体	対象		
【木育・木造建築/伝統技術を学べる場:木育フェスの開催】 ・木造建築の伝統技術等を学ぶ講座・ワークショップ ・木についての講演 ・高性能林業機械の展示 ・丸太切体験、チェーンソーアート等	1,500	1,500	【木育・木造建築/伝統技術を学べる場:木育フェスの開催】1,500千円 ・木育フェス実行委員会への補助金1,500千円(うち、交付対象事業経費 1,500千円) 補助対象者 木育フェス実行委員会(仮称) 補助率 10/10 補助上限額 1,500千円 補助対象経費 講座・ワークショップ講師等への謝金、材料費 展示機材の賃借料 消耗品費 ※当該事業のみで使用されることが確認できるもの 委託・外注費 ※補助事業者が直接実施することができないもの又は 適当でないものについて、他の事業者へ委託・外注するために必要な経費(ほかの経費項目に含まれるものを除く)	
			関連するKPI	②
			(2-3)⑥に該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額	
			全体事業費	
			交付対象事業費	
小計	1,500	1,500		

<2028年度(3年目)> ※2年目以降の交付額が担保されるわけではありません。

全事業期間における本年の位置付け		町産材木質空間の整備(需要創出・実証拠点)町内拠点施設として3年目は、1か所を整備します。													
事業開始時期		事業終了時期		予算計上時期①		予算種別①	予算計上時期②		予算種別②	予算計上時期③		予算種別③			
2028年4月		2029年3月		2028年3月		当初	年 月			年 月					
交付対象事業経費		12,585千円													
建築物整備経費		8,800千円		設備整備・用地造成等経費		0千円		備品経費		2,285千円		効果促進事業(ソフト事業)経費		1,500千円	
建築物整備の内容										要素事業数		1			
区分	整備内容の説明			金額(千円)		経費内訳									
				全体	対象										
模様替	<p>【整備場所の名称】 芦北町立湯浦中学校多目的教室</p> <p>【整備内容】 ・これまで木質化が遅れている学校施設へ町産材仕様の木質空間(WoodInfill)及び木製備品を整備し、木材産業振興と木育の実証拠点として活用する。(探究学習、地域人材による出前授業、地域材のストーリー発信等)。 ・木質空間設置 1拠点</p>			8,800	8,800	<p>・木質空間設置工事費 8,800千円(うち、交付対象事業経費 8,800千円)</p> <p>【合計】 8,800千円 (うち、交付対象事業経費 8,800千円/内訳: 芦北町 8,800千円)</p>									
						関連するKPI		①②							
						(2-3)⑧に該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額									
						全体事業費									
						交付対象事業費									
	小計			8,800	8,800										
設備整備・用地造成等の内容										要素事業数		0			
区分	整備内容の説明			金額(千円)		経費内訳									
				全体	対象										
	小計			0	0										
備品の内容										要素事業数		1			
	備品整備の説明			金額(千円)		経費内訳									
				全体	対象										
	<p>【木育備品】 ○芦北町総合コミュニティセンターでの木のおもちゃ整備</p> <p>【木質空間備品】 ・木質テーブル1台×1拠点 ・木質チェア6台×1拠点</p>			2,285	2,285	<p>【木育備品】800千円 ・木のおもちゃ 800千円</p> <p>【木質空間備品】 1,485千円 (うち、交付対象事業経費 1,485千円/内訳: 芦北町 1,485千円)</p> <p>・木質テーブル 385千円(うち、交付対象事業経費 385千円) ・木質チェア 1,012千円(うち、交付対象事業経費 1,012千円) ・送料 88千円(うち、交付対象事業経費 88千円)</p>									
						関連するKPI		①②							
						(2-3)⑧に該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額									
						全体事業費									
						交付対象事業費									
	小計			2,285	2,285										

効果促進事業(ソフト事業)の内容		要素事業数	1	
効果促進事業(ソフト事業)の説明	金額(千円)		経費内訳	
	全体	対象		
【木育・木造建築/伝統技術を学べる場:木育フェスの開催】 ・木造建築の伝統技術等を学ぶ講座・ワークショップ ・木についての講演 ・高性能林業機械の展示 ・丸太切体験、チェンソーアート等	1,500	1,500	【木育・木造建築/伝統技術を学べる場:木育フェスの開催】1,500千円 ・木育フェス実行委員会への補助金1,500千円(うち、交付対象事業経費 1,500千円) 補助対象者 木育フェス実行委員会(仮称) 補助率 10/10 補助上限額 1,500千円 補助対象経費 講座・ワークショップ講師等への謝金、材料費 展示機材の賃借料 消耗品費 ※当該事業のみで使用されることが確認できるもの 委託・外注費 ※補助事業者が直接実施することができないもの又は 適当でないものについて、他の事業者に委託・外注するために必要な 経費(ほかの経費項目に含まれるものを除く)	
			関連するKPI	②
			(2-3)⑥に該当する間接補助の場合は以下も記載 ※その他の補助金等を除いた金額	
			全体事業費	
			交付対象事業費	
小計	1,500	1,500		